

Event Report

対中経済安全保障に関するブリーフィング

2023年6月5日（月）17:30～20:30

6月5日、コンラート・アドナウアー財団^{シュティフトゥング}（KAS）日本事務所は、ノルトライン＝ヴェストファーレン（NRW）州ヘンドリック・ヴェスト首相の来日に際し、対中経済安全保障に関するブリーフィングを開催した。3名の専門家によるブリーフィングの概要は以下のとおり。

KAS ジャパンプログラムの瀧口直輝シニア・プログラム・マネジャーおよびヴェスト州首相の挨拶に続き、最初に白石重明主任研究員（中曽根平和研究所）が対中経済安全保障についてブリーフィングを行った。重要なのは、経済安全保障の概念が経済の論理と安全保障の論理の間でのバランスングであると定義された点である。白石氏はまた、経済と安全保障の両分野で大国となった中国との関係において、同志国が協力し、経済と安全保障の間で適切なバランスを見出す必要があると述べた。

続いて、渡邊頼純教授（関西国際大学）が対中デリスクングとデカップリングの概念について論じた。渡邊教授は、主要7か国（G7）が持続可能かつ強靱な経済を構築するために経済関係を多様化するデリスクングのアプローチに合意した点に触れ、これは自由な世界貿易にとって幸運なシナリオであると述べた。また、渡邊教授は中国がCPTPPのような自由貿易協定への参入と協力に意欲的であると指摘し、日本は他のCPTPP加盟国とともに、高い水準の貿易ルールを維持しながら、中国に対抗するのではなく、将来の中国のCPTPP加盟を支援すべきであると主張した。

最後に、松原美穂子チーフ・サイバーセキュリティ・ストラテジスト（NTT）が、サイバーセキュリティ分野における日独協力についてブリーフィングを行った。松原氏は、安定した資源供給、重要インフラの強靱化および知的著作権の保護による競争力の向上に際し、サイバーセキュリティが極めて重要であると述べた。松原氏はさらに、特にグローバリゼーションと高度な相互依存の時代においては、ある国から他国へのサイバー攻撃が世界中の経済にダメージを与えることは避けられないため、信頼に足るサイバーセキュリティの確立は経済安全保障にとって不可欠であると指摘した。

本プログラムは、ブリーフィングに続いて NRW 州閣僚およびビジネス代表者から成る訪日団との議論が行われたあと、国会議員や専門家を含むゲストとのネットワーキングイベントによって締め括られた。

以上